



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.6.18 No. 4803

照岡支部長
田中書記長

不当労働行為立証の証言

勝浦運転区廃止差別地労委 第一八回審問開催(6/16)

六月一六日、一〇時から、千葉県地方労働委員会において、「勝浦運転区廃止差別地労委」の第一八回審問が行なわれ、組合側証人である鴨川支部・照岡支部長に対する会社側反対尋問と田中書記長に対する組合側主尋問が行なわれ、JRの不当労働行為性をあらためて明らかにした。

会社側反対尋問に反証しきる

— 照岡支部長 —

照岡支部長への会社側反対尋問は、転勤希望調査で本人の希望とは違う箇所を書いた人について、運輸区設置による運転士と車掌の合同訓練について、指導縦線の指定などについてであったが、照岡支部長は、勝浦より上り方面であることや仲間のことを思いやっつて自分から京葉や千葉転と書いた組合員がいたこと、運輸区以外の千葉転や勝浦運転区当ても車掌との合同訓練が行なわれていた事実、動労千葉の組合員は作業標準に従って運転しているにもかかわらず指導縦線に指定されていないなど、会社側の主張に対して完全に反論しきった。

勝浦運転区廃止自体が組織破壊

続いて、田中書記長に対する

組合側の主尋問が行なわれた。

田中書記長は、まず、会社が鴨川運輸区新設にあたっては平移動はありえないとしていることについて、管理者や車掌は全て平行移動している事実をあげ、また、東京から送り込んだ五名(全員JR総連)については、会社が移動の三条件として上げた①車掌経験者、②若手を指導できる者(指導縦線者)、③小集団活動などを行なっている者のうち、車掌経験や指導縦線者でないなど三つのうち二つの条件がクリアしていないにもかかわらず人選された不当性を明らかにした。

さらに、会社は、九五年八月二九日の要員提案以降、九月上旬までに人選の青写真を作ったと主張していることについて、その間には他区から鴨川に行く運転士の希望などが調査されいるが、廃止になる勝浦運転区では一〇月上旬に実施された面談までなんらの調査も行なわれていないということであり、なんとしても動労千葉を排除しようとする会社の姿勢が明らかであることを立証した。

この他にも、マンシヨンの借上は福利厚生の問題であり、社員に明らかにして公募すべき事柄であること、鴨川運輸区の建築確認申請が九五年三月末に行

なわれていることや九四・一二ダイ改で勝浦の業務を縮小していることからすると、その当時から勝浦運転区廃止—鴨川運輸区新設の攻撃が始まっていたこと、本件が動労千葉を排除するための人事運用だけでなく、職場を廃止すること自体が動労千葉破壊攻撃そのものであることを最後に証言し、主尋問を終了した。

次回は、田中書記長に対する

新ガイドライン関連法案を廃案へ！ 6・16国会デモに立つ！

六・一六反戦共同行動委員会主催の国会デモは、沖繩から駆けつけた反戦地主会の照屋秀傳氏を先頭に三〇〇名余の仲間が結集し、戦闘的にたたかれました。

会社側の反対尋問が行なわれる予定となっている。勝浦運転区の復活、不当労働行為一掃へ向け傍聴に結集しよう！

勝浦運転区廃止差別地労委

とき 七月二一日(火)

一三時から

千葉地労委

※田中書記長に対する会社側反対尋問の予定



総務部内の応接室で総務課担当の山岸・藤田両氏に署名を提出する呼びかけ人代表団。右から宣保幸男さん、西岡智さん、中島誠さん、松井道夫さん、大島孝一さん。署名箱の後ろに立っているのは今村秘書

集会のなかで照屋氏は、「戦争への道—新ガイドライン関連法案絶対反対—沖繩闘争勝利のために決意を新たに闘う」とキツパリと宣言され、参加者全員も七月からの臨時国会闘争にむけて職場で、地域で「百万人署名」を武器に全力で警鐘を打ち鳴らしていくことを決意した。

現在、百万人署名運動は、第一次提出分として一三万人分の署名が、呼びかけ人多数が出席するなかで提出された。

全国的にも各地域の連絡会づくりが本格的に開始されており、「九月までに五〇万人の署名を集めよう」と檄が発せられている。動労千葉も、目標貫徹に向け、さらに奮闘し、夏から秋の闘いに多くの労働者の決起をつくりだそうではないか。

集会参加者全員がそのことを決意し、国会デモを闘いぬいた。